

秋出しトルコギキョウにおける 切り花品質向上・開花抑制技術

秋出し（9月～10月）トルコギキョウ栽培において、高温・長日条件により早期開花、短茎開花等の品質低下が問題となっています。従来は、定植後2ヶ月間の短日処理が必要とされてきましたが、（地独）青森県産業技術センター農林総合研究所では、7月の1か月間を遮光率40%程度の白寒冷紗を展張すること、または、定植後の1か月間を短日処理することで、切り花品質が向上し、開花が抑制されることを確認しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 秋出し栽培における白寒冷紗による遮光処理

- (1) 遮光率 35%～40%の白寒冷紗を内張り（屋根下）、あるいは外張り（屋根上）することで、切り花品質が向上します（図1）。
- (2) 遮光時期・遮光期間は、7月の1か月間で切り花品質向上の効果が高くなります。
- (3) 遮光処理による品質向上効果は、中生品種よりも中晩生品種で高くなります（図1）。

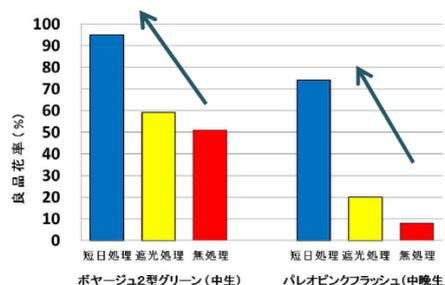


図1 各処理における品質向上効果

2. 秋出し栽培における短日処理

- (1) 定植後の1か月間を畦上に遮光資材をかけて暗黒にし、9時間日長にすることにより、切り花品質が向上します（図1）。
- (2) 開花盛期は、中生品種で2週間程度、中晩生・晩生品種で4週間程度抑制されます（表1）。
- (3) 短日処理は、白寒冷紗による遮光処理よりも品質向上効果が高くなります（図1）。

表1 各処理における開花抑制効果

品種	処理	開花盛期	抑制日数
ポヤージュ2型グリーン (中生)	短日処理	9月7日	+ 11日
	遮光処理	8月30日	+ 3日
	無処理	8月27日	—
パレオピンクフラッシュ (中晩生)	短日処理	10月12日	+ 26日
	遮光処理	9月21日	+ 5日
	無処理	9月16日	—
ファイナルホワイト (晩生)	短日処理	10月30日	+ 32日
	遮光処理	9月28日	0日
	無処理	9月28日	—

☆ 活用面での留意点

1. 白寒冷紗を用いた2か月間の遮光処理では品質が低下するので、1か月間の遮光後、確実に寒冷紗を除去する必要があります。
2. 定植後から発蕾までの間に日照量が少ない年では、遮光処理により切り花品質が低下する場合があります。また、地域や品種によって効果が異なる場合がありますので、注意が必要です。
3. 本成果は遮光率 35%～40%の白寒冷紗（クールホワイト 520SW）を用いた結果です。
4. 詳しいことは、青森県産業技術センター農林総合研究所 花き・園芸部（TEL:0172-52-4341）までお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏）